

防災

北区 ^{あだち}安達さん(40歳、女性)市は、冬場の災害への対策をとっていますか。

清田区 ^{おくやま}奥山さん(76歳、男性)町内会単位で組織している「自主防災組織」が災害時に機能するのか不安です。

白石区 ^{にわ}仁和さん(49歳、男性)東日本大震災があり、近所の人との交流の大切さを痛感しました。もっと普段の生活の中でつながりを持てるようにするべきでは。

市長 災害時の食料や毛布などの備蓄については、東日本大震災を踏まえ、さらに増強を進めています。同時に、冬の災害に備えて、避難場所になる体育館などの断熱性を高めるための設計を始めました。阪神・淡路大震災のときには、実に被災者の8割の方が隣近所の人に助け出されたというデータがあります。地域で助けが必要な人を把握しておくことが大切です。



厚別区 ^{いしぐる}石黒さん(58歳、男性)知的障がいのある子が高等養護学校を卒業した後、働ける場所を増やせないでしょうか。

南区 ^{せきた}関下さん(71歳、男性)歩道の真ん中に電柱があって車椅子が通れない場所があります。障がいのある人が歩きにくい道があることを、もっと分かってもらいたいです。

市長 市では、障がい者を積極的に雇用するよう企業に働き掛けるとともに、元気カフェなどの雇用の場を創出してきました。こうした施策を今後も進め、障がい者はしっかり働ける、という認識を多くの人に持っていただきたいです。歩道のバリアフリー化については、都心や駅の周辺などを中心に、順次進めています。街じゅう全てを整備するのは難しいので、優先度を考え、計画的に実施していくことになります。

障がい者施策

中央区 ^{しぶや}渋谷さん(50歳、女性)地域や公園の中に、子どもたちと一緒に花を育てられる場所や、緑を楽しめる場所がもっとあると素晴らしいと思います。

手稲区 ^{おおい}大井さん(55歳、女性)花を通じて、もっと楽しく、安らぎのあるまちづくりができないでしょうか。

みどり

市長 子どもたちが苗を育て、花が咲いたら地域の人と一緒に世話をする「マイタウン・マイフラワー活動」が、市立幼稚園・小学校の85%以上に広がっています。学校を中心に、子どもと地域の方々が一緒になって、花や緑を大事にするという気持ちを育てていく、こうした活動を今後も支援していきます。



皆さんの声で札幌をもっと暮らしやすいまちに

今回見てきたように、市民一人一人はさまざまな意見を持っていますが、「札幌をより暮らしやすいまちにしたい」という思いは共通しています。ふらっとホームの他にも、市民の皆さんの声を聞かせていただく機会を設けていますので、ぜひご意見をお寄せください。市は、そうした皆さんの声を大切に、札幌がよりよい街になるように努めていきます。

市政に関するご意見、ご提案を
お待ちしております

市民の声を聞く課

☎211-2042 FAX218-5165

インターネット市政提案

www.city.sapporo.jp/somu/shiminnokoe/iken/shiseiteian.html